

群 教 セ	G11 - 03
	平26.254集
	特活 - 小

自己有用感を高める学級活動の工夫

—他者からの思いを受けたハピネスカードの活用を通して—

特別研修員 大島 康輔

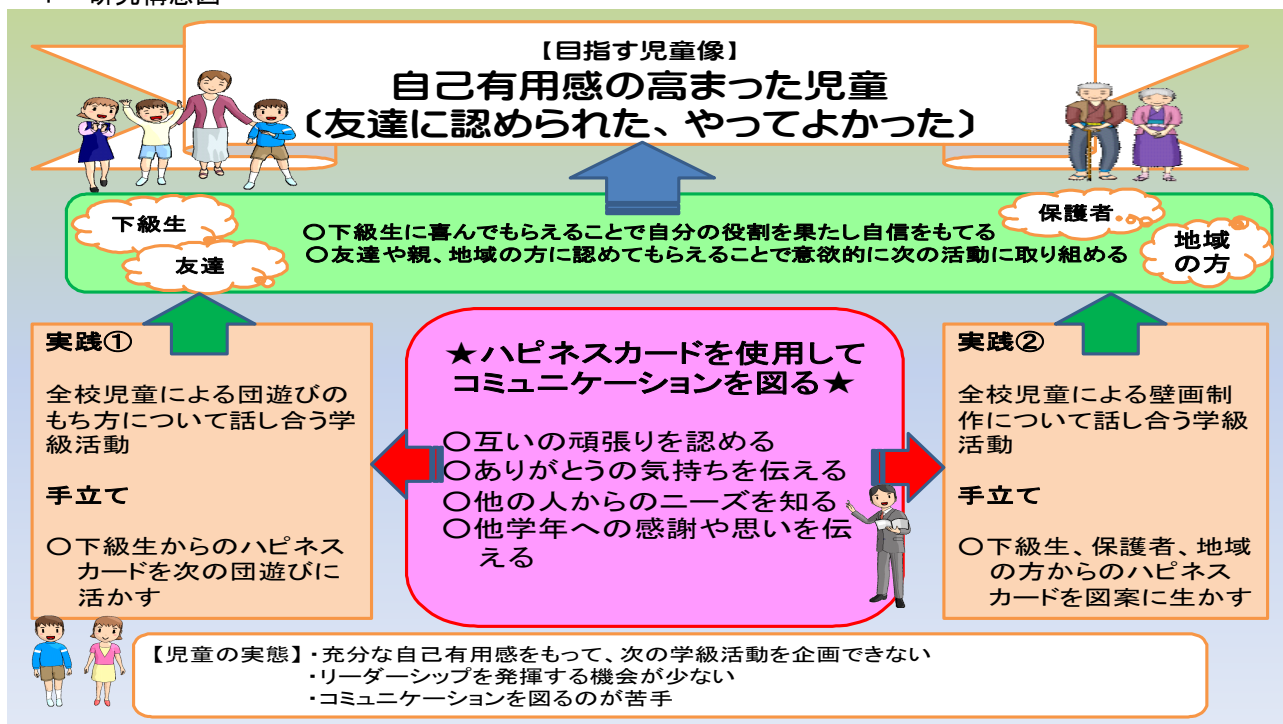
I 研究テーマ設定の理由

小学校学習指導要領において、学級活動の目標は「学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるより良い生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。」とある。また、平成26年3月作成の「はばたく群馬の指導プラン実践の手引き」では、「学級や学校の生活づくりは、集団での話し合いを通して、集団の目標を決定し、集団で実践する児童の自発的、自治的な活動を特質としています。」とあり、児童の自発的、自治的な能力を高めることが求められている。

学級や学校で児童が自信を持って集団の一員として積極的にかかわるためには、「自分は認められている」「自分は人の役に立っている」といった自己有用感を持つことが大切である。集団の中では自分の考えを友達に伝えるだけでなく、相手の立場も考えた受け答えによる人間関係づくりが重要である。相手のことを思いやり、相手のよさを認めたり、相手と協力して物事に取り組むことで人間関係を良好にすることができる。しかし、高学年となると照れや、恥ずかしさなどから、友達同士で改まって、お互いのよさを認めるといことは難しい。また、小規模校では、学級内の人間関係も固定しがちで、コミュニケーションが少ない。そして、第6学年だからといってリーダーシップをとったり、下級生の面倒をみたりすることを求められても困難な状況がある。そこで、学年を超えたコミュニケーションを図る機会を意図的につくり、学級活動で話し合うことが必要であると考えた。異年齢交流（団活動）を計画し、事前の話し合い活動を充実させ、高学年としてのリーダーシップを発揮し、活動後の自己評価だけでなく、同級生、他学年、保護者、地域の方からの他者評価を取り入れることで、自己有用感の向上を図ることができると考えた。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1) 議題「全校児童が楽しめる団活動を考えよう」(第6学年・1学期)

異年齢交流として行う団活動(学期に数回行う遊び集会)のもち方について意見を出し合い、下級生も楽しめる活動について話し合う。

—〈実践1における手立て〉—

- 団活動後、下級生にハピネスカードを書いてもらい、下級生がどのような思いをいただいたかを知り次回の企画に活かす。
- 下級生のことを考えた団活動を計画することで、異年齢交流を深め、学校全体を良くしようという視点をもたせる。

ハピネスカードとは、相手の良さや相手への感謝の気持ちを書いたもので、クラスの中で交換したり、下級生と交換したりする。今回のハピネスカードから、「団活動楽しかったよ。」「もっと違う学年の子と遊べるといいな。」「団全員の名前を覚えたい。」といった次の活動のヒントとなる意見を次の企画に活かす。ハピネスカードを話し合いに取り入れることで、自分の考えだけでなく下級生の思いも受けとめ活動を計画する。

(2) 議題「学校へ感謝の気持ちを伝える壁画をみんなでつくろう」(第6学年・2学期)

全校児童による壁画制作に向けて、どのような題材でどのように作成していったら良いかについて話し合う。

—〈実践2における手立て〉—

- ハピネスカードにより保護者、地域の方、下級生の気持ちをくみ取り、話し合い活動に活かす。

下級生からだけでなく保護者、地域の方から、児童に期待することについてハピネスカードを書いてもらい、大人からみた児童の頑張りや6年生の児童に期待することを壁画制作における話し合いに取り入れる。

最上級生として運動会での活躍についてハピネスカードをもらい、保護者からも認めてもらえているということを実感し、自信につなげる。また地域の方や下級生から「小学校での思い出の行事や楽しかった出来事など」をハピネスカードに書いてもらい、最上級生として頑張ろうという気持ちにさせるとともに壁画のアイデアを得る。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 話し合い活動に下級生が書いたハピネスカードから読み取った希望や要望を取り入れて企画し、実践することで最上級生としての自覚や自信を持つことができた。
- 実践後、お互いに「ハピネスカード」を書き合うことで「役に立てた。」「下級生に喜んでもらった。」「やってよかった。」「仲間から必要とされている。」といった達成感、充実感を味わうことができたことは自己有用感の向上につながった。

2 課題

- ハピネスカードに書いてもらいたいことを明確に伝えないと、話し合いに活用できる情報を得られないことがある。ハピネスカードを書いてもらう時の説明が大切である。

3 提言

- 異年齢交流は、6年生の自発的、自治的な活動を促し自己有用感を向上させることにつながります。活動の企画段階で、相手の意見をしっかりと聞きとろうとすることを大切にし、下級生の思いや期待に応えようと話し合い活動を充実させることが自発的、自治的な能力を高められると考えます。

<授業実践>

実践 1

1 議題名 「全校児童が楽しめる団別活動を考えよう」(第6学年・1学期)

2 本議題及び本時について

本議題では、「最上級生として、低学年に配慮した全校児童が楽しめる活動を考えよう」をめあてとした。団別活動後の下級生の意見や感想を話し合いに取り入れることで、「下級生に喜んでもらった。」「目的を達成できた。」と満足感や充実感を味わう。企画し運営する中で役割や責任をもち、団、学級、学校全体という集団の中での所属感を得ることができると考えた。

3 授業の実際

活動の流れは以下のように行った。

導入：「小学校をよくするためには、団活動をどのようにしたら良いか」を話し合う。(全体討議)
展開：「前回の団活動の課題である他学年の顔と名前を覚えるためにはどうしたら良いか」をテーマに各団で話し合う。(グループ討議)
まとめ：全体討議でグループ(各団)の意見を発表し合い共有。また、グループ討議に入る前に下級生に書いてもらったハピネスカードを提示し、下級生の感想を話し合いに入る前の参考とした。

(1) 全体討議

全体討議では、第1回目の団別活動「団で遊ぼう」の振り返りをもとに、よかったところ、課題となったところを確認し、次の活動内容について話し合いを行った。第1回目の課題は、「下級生の顔と名前が一致しない。」「下級生に名前を覚えてもらえない。」ということにあった。これは下級生の実態や思いを考えずに、6年生がやってみたい活動を優先して実践したため、遊んだだけでコミュニケーションがとれなかった。また、普段から下級生との交流が少ないため、下級生の事を考えられていなかったと反省することができた。

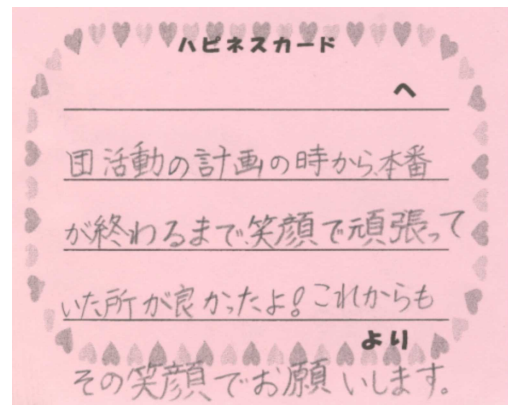


図1 ハピネスカード

『全校児童が楽しめる団活動について考えよう』の「全体討議」での活動の様子

司会：小学校をよくするために、団活動をどのように工夫したら良いと思いますか。

S1：自分たち(高学年)が低学年の気持ちを考えて遊んだり、話したりすると良いと思います。

S2：顔や名前を覚えるだけでなく、それぞれが団活動以外でも話すようなことをすると良いと思います。

S3：団活動だけでなく、他にも団ごとに遊べる機会を増やしたら良いと思います。

全体討議では、ねらいとしていた小学校を良くしようという気持ちを高めるよりも、団活動をどのように進めていくべきかといった視点で意見が出された。これは、第1回の団活動「団で遊ぼう」が思うような活動にならなかったためと考えられる。また、下級生の思いにふれ、期待に応える活動を十分に考えていなかったことに気づけたためと考えられる。

(2) グループ討議

全体討議で出された反省をもとにグループ討議を行った。ここで、1年生からのハピネスカードとアンケートを紹介した。下級生の思いを確認し、それぞれの話し合い活動に活かすことにした。

1年生へのアンケート結果「団活動をして、どうなったらうれしいですか？」

- | | |
|-----------------------------------|--|
| <input type="radio"/> 仲良くなれたらうれしい | <input type="radio"/> 名前を新しく覚えた子と一緒に遊べたらうれしい |
| <input type="radio"/> たくさん遊べる | <input type="radio"/> みんなが優しくできるようになったらうれしい |
| <input type="radio"/> 話がたかさんできる | |

グループ討議では、四つの団に分かれ、「他学年の顔と名前を覚えるためにはどうしたら良いのか」についての意見を出し合った。どの団も前回の活動から、全く違う活動を行うのではなく前回の活動に名前を覚える工夫をしてみようという話が進んでいた。図2の下線部から、1年生も名前を覚えてくれたことがハピネスカードより確認ができたためである。グループ討議後は、再び全体討議に戻り、団活動以外でもどのような取り組みをするべきかを話し合った。

- | |
|-----------------------------|
| A: <u>じゃんけん楽しかったよ。</u> |
| B: <u>〇〇ちゃんの名前おぼえたよ。</u> |
| C: <u>〇〇さん、また遊んでほしいな。</u> |
| D: お兄さん、お姉さんありがとう。 |
| E: <u>〇〇ちゃん、もっと遊んでほしいな。</u> |

図2 1年生からのハピネスカード

「グループ討議後の全体討議」の活動の様子
司会：「他学年の顔と名前を覚えるためにはどうしたら良いのか」について意見はありますか？
S1：名前を当てるようなゲームでは、その人の特徴をヒントとして言ったら良いと思います。
S2：1年生など低学年に積極的に話しかけて覚えてもらおうと良いと思います。
S3：顔や名前が頭に残るようなことをすると良いと思います。
S4：相手の顔写真と名前、特徴を書いた紙を団の中で自己紹介しながら交換するのも良いと思います。

グループ討議後の全体討議では、前回の団活動の課題がハピネスカードから、はっきりしていたため、意見が活発に出てきた。また、第1回目の団活動を定める話し合い活動の時には、自分たちがしたい遊びばかり挙げていた児童も「楽しかった」「ありがとう」といったハピネスカードやアンケートを目にすることで、図3の下線のように低学年のことを考え、名前や顔を覚えるための活動にしようという意見を出し、最上級生としての自覚ある発言が出された。

(1回目の話し合いで出た意見)		(2回目の話し合いで出た意見)	
○ おにごっこ	○ しまおに	○ <u>名前プレートをつけてだるまさんが転んだ</u>	
○ 自己紹介ゲーム	○ こおりおに	○ ミラクルバスケットで自己紹介	
○ 自己紹介カルタ	○ サッカー	○ <u>顔当てかるた&異学年との「トーク」</u>	
○ フルーツバスケット		○ じゃんぼカルタ	

図3 1回目の話し合いで出された意見から、2回目の話し合いで出された意見の変容

2回目の団活動後の振り返りでは、「今回は結構うまくいきましたよ。」「名前を覚えてもらえましたよ。」など前回の団活動よりも達成感や充実感を得たことが窺える発言をしていた。また、下級生からのハピネスカードにも「ミラクルバスケットの自己紹介も面白かったよ。」や「じゃんぼカルタ良かったよ。」など企画がうまくいったことが感じられる言葉があった。これは、1回目の団活動での反省をハピネスカードからくみ取り、下級生の実態や期待していることを2日目の団活動で活かすことができたと考えられる。

4 考察

1回目の団別活動を企画するときは、どんな活動をしたら良いのか、なかなか決まらなかった。男子はサッカーをしたいと譲らない場面が見られた。下級生のことを考えた活動よりも、自分がしたい活動を発言する姿が見られた。

しかし、2回目の活動計画の話し合いでは、下級生のために頑張ろうという意識、最上級生としての責任感が出てきた。下級生のことを考え、前回の課題を解決する工夫を加えた活動を考えた発言が出てきた。これは、下級生からのハピネスカードから下級生の思いを受け止めることができ、みんなの思いをくみ取って活動に取り組めたためと考えられる。

実践 2

1 議題名 「学校へ感謝の気持ちを伝える壁画をみんなでつくろう」(第6学年・2学期)

2 本議題及び本時について

本議題では、団活動の一つである全校児童による記念品制作において、感謝の気持ちを伝える記念品を製作するという大きなめあてがある。記念品の制作では、最上級生としてのリーダーシップをとりながら、活動してきた集大成とすべく、下級生の思いだけでなく、地域の方や保護者の思いを話し合い活動に取り入れる。多くの方々の願いや思いを受けとめ、全校児童で協力して壁画を完成させ、ハピネスカードをもらうことで、充実感、達成感を得られ、自己有用感の向上につながると考えた。

3 授業の実際

話し合い活動に入る前に、地域の方に書いてもらった図4のようなハピネスカードを紹介した。最上級生として頑張っていることを認めてもらっていることを全体で紹介した。また、地域の方に書いてもらった「児童に期待すること」を紹介し、地域の方が自分たちに期待すること「学校を大切にしてほしい」「仲間を大切にしてほしい」といった願いについて考えた。また下級生にはアンケートをとり、小学校での思い出に残っている行事や楽しかった行事など具体的な意見を集めた。その後、感謝の気持ちを伝える壁画を制作するにあたり、どのような壁画にしたら良いのか話し合い活動を進めた。

- 子どもたちから明るさや、素直さに元気をもらいました。感謝しています。
- 自分の卒業した学校以上に思い出がありすぎて書き切れません。
- 今の校舎で、今の友達で、今の先生方と全力で毎日楽しく過ごしてください。
- 友達を学年関係なく作ってください。
- 仲間を大切にしてください。
- 新しい学校に行っても、友達をたくさんつけて早くなじんでください。

図4 地域の方から寄せられたハピネスカード

話し合い活動の様子

【話し合う】

司会：「地域の方々の思い、下級生の声を取り入れた壁画として、どのような絵を描くと良いか」について意見はありますか？

S1：地域の方にとっても思い出の場所や物などを描く。

S2：思い出の行事、場面を春夏秋冬に分けて、団ごとに下級生と協力して描きたい。

S3：小学校から見える豊かな自然を背景にして校舎を描いたら良いと思います。

S4：感謝の気持ちを込めて学校の絵を描く。

S5：すべての団で決められた絵を描く。

S6：地域の方も含めて、みんなの手跡をつけたい。

【比べ合う】

司会：「決まっていること（作成にあたっての条件）をもう一度確認します。」

「制作時間は2時間位」「学校への感謝の気持ちを伝えたいこと」「地域の方、下級生の思いを受けたもの」「四つの団に分かれて制作すること」「低学年も参加し、描けるもの」「見てもらって嬉しい」「やりがいのあるもの」です。これらをもう一度確認して意見を出してください。

S7：「感謝の気持ちを伝えるために、ありがたいの文字を描いたら良いと思います。」

S8：「出てきた意見をまとめて一つの絵にしたら良いと思います。」

話し合いでは、多くの意見が出されたが、比べ合うために計画委員が意見を整理するといくつかまとまった。集団決定する場面では、「全部を一つの壁画として描いたらどうか」という意見が出ると全員が納得し集団決定することができた。これは、計画委員が意見を整理し分かりやすく提示できたこと、これまで話し合いを続けてきた中で友達の意見を認め合える雰囲気や環境をつくり上げてきたことが考えられる。さらに、一人一人が学校に対し感謝の気持ちを持って話し合いに参加した結果であると考えられる(図5)。

その後の準備計画を話し合う中で、下級生の思いをくみ取り、全校児童が思い出に残る場面となる学校行事を壁画に組み合わせて描くことにした。また、春夏秋冬の季節にわけて描き、更に思い出の行事の場面を描き足した（図6）。

- 思い出の行事・場面を春夏秋冬で分けて描く
- 学校の絵を描く
- 小学校を描いて上のあたりに「ありがとう」と書く
- みんなの手形をつける
- 桜の木を描く



図5 話し合いで決定した壁画にもりくむこと

図6 完成した壁画

壁画制作では、6年生が下描きを行い、団別に下級生が一斉に色を塗れるように準備を進めた。当日は、下級生に分担を説明し、コミュニケーションをとりながら色塗りの指導をした。6年生が下級生に色塗りのお手本を示し教える姿も見られた。下級生と関わりを持つ中で、充実感、自己有用感を持ってたと考える。また、全校児童、壁画を見に来た保護者と地域の方からたくさんのハピネスカードを得ることができた。

感想
 A：下級生の思いや、地域の方々の期待に応えようという気持ちや意識もあります。
 地域の方々の考えを知って、この学校に沢山の思い出を持っていると分かったので、これから、卒業まで、たくさんの方々に感謝の気持ちと最上級生としての意識をしっかりと持って残り少ない小学校生活を大切にしていきたいです。

図7 振り返りでのコメント

○○へ
圧巻！さすが高学年！！素晴らしい一日をありがとう。 団結力もすばらしかった。涙をこれえるのが大変でした。目標に向かって協力し、何かを成し遂げる仲間っていいね。 これからもまた、色んな仲間と色んなことに挑戦だね！
 “一生懸命 本気でやれば大抵の事はできる”だよ。司会進行もスムーズにできて安心しました。
 よかったよ。 母より

図8 保護者からのハピネスカード

下級生の思いや地域の方々が児童に期待していることをハピネスカードからくみ取り壁画制作に携わり、完成させることができた。図7の下線から、実践後の振り返りでよりいっそう自発的、自治的な活動に意欲的に取り組めたことが分かる。また、図8の保護者からのハピネスカードより、最上級生として頑張っていたことを認めてもらえ、ハピネスカードによって可視化できた。

4 考察

2学期の学級会では、ハピネスカードを使用したことで学級会に意欲的に取り組む姿が見られた。保護者、地域の方々、下級生の思いや期待を意見として取り入れることで、話し合いが活性化し考えの幅を広げることにつながった。これは、保護者からハピネスカードを書いてもらうことで、児童のやる気や頑張ろうとする気持ちが向上したためと考えられる。

また、実践や実践後の振り返りの中で「もっと何かしたい」など意欲的な発言が見られた。これは、異年齢交流を通して、自発的、自治的な活動を行うことの楽しさを味わい、所属感や愛校意識が高まったためと考えられる。壁画制作の実践の場面では、6年生がそれぞれ担当した下級生に指示を出し、コミュニケーションをとりながらリーダーシップを発揮して活動することができた。また1学期と比べて下級生への接し方が積極的になり、活動後のハピネスカード交換でも、互いに認め合うコメントも多く見られた。以上のことから、ハピネスカードにより保護者、地域の方々、下級生の気持ちをくみ取ることは自己有用感を高めることに有効であったと考えられる。